

都筑区地域子育て支援拠点事業 5か年のまとめ 実施概要

対象事業	都筑区地域子育て支援拠点事業
対象期間	令和3年度～令和7年度(5か年度)
事業の実施者	特定非営利活動法人こども応援ネットワーク
	都筑区こども家庭支援課
実施目的	<p>1 これまでの5か年度の事業を振り返り、成果や課題、今後の方向性などを整理するために実施するものです。</p> <p>2 市民協働事業の実践を通じて経験を蓄積し、その後の市民協働や市民協働事業に活かしていくため、また、当該協働事業の当事者だけでなく、多くの市民等の協働への参加意欲を高めるため、当該評価を公開し、透明性を高めていくために実施するものです。</p>
実施時期	令和7年6月～令和7年8月
実施について	<p>拠点事業は、区と運営法人との協働により進めています。毎年度、事業ごとに定めている「目指す拠点の姿」に沿って役割分担し、行動計画を立て、年度末には「振り返りの視点」に沿って取組の振り返りを行いながら事業を進めてきました。また、中間期には「有識者を交えた事業評価」を実施し、事業の運営・管理にフィードバックして拠点運営状況の向上を図りました。今回は、その後の事業振り返りを加え、今期5か年のまとめとしました。</p> <div><p>【参考】拠点の7事業</p><ul style="list-style-type: none">1 乳幼児の遊びと育ちの場及びその養育者の交流の場の提供(親子の居場所事業)2 子育てに関する相談及び関係機関との連携に関すること(子育て相談事業)3 子育てに関する情報の収集及び提供に関すること(情報収集・提供事業)4 子育てに関する支援活動を行う者同士の連携に関すること(ネットワーク事業)5 子育てに関する支援活動を行う者の育成、支援に関すること(人材育成、活動支援事業)6 地域の住民同士で子どもを預け、預かる支え合いの促進に関すること (横浜子育てサポートシステム区支部事務局運営事業)7 子育て家庭のニーズに応じた施設・事業等の利用の支援に関すること(利用者支援事業)</div>

1 親子の居場所事業

目指す拠点の姿	(参考)3期目振り返りの課題	自己評価 (A～D)	
		法人	区
①利用者を温かく迎え入れる雰囲気のある場になっている。	・ひろばで把握したニーズを拠点だけでなく、地域の支援に広めていくように取り組んでいく。 ・子どもの年齢・月齢に応じた遊びの環境が整備されるように、居場所づくりについて工夫し検討していく必要がある。	A	A
②多様な世代、性別等の養育者と子どもが訪れる場になっている。		A	A
③養育者と子どものニーズ把握の場になっている。		B	B
④親(養育者)自身が親として育ち、また子どもが育つ場となっている。		B	B

評価の理由(法人)

(主なデータ)

◆年間利用者数

(人)

	R2	R3	R4	R5	R6
ポポラ	14,943	19,567	23,939	24,259	22,451
ポポラサテライト	16,130	25,616	31,852	35,217	30,569
合計	31,073	45,183	55,791	59,476	53,020

※R6利用者数減少：年間開所日の減少(R6年4月より祝日の翌日を振替休日のため閉館)、受付システムの仕様変更等によるものと考えられる。

◆利用者種別・総合計

ポポラ

(人)

	R2	R3	R4	R5	R6
子ども	7,699	10,036	12,091	12,269	11,219
父・プレパパ	642	1,050	1,248	1,492	1,474
母・プレママ	6,437	8,300	10,270	10,123	9,233
その他	165	181	330	375	525
合計	14,943	19,567	23,939	24,259	22,451
開所日	208日	247日	245日	251日	244日

サテライト

(人)

	R2	R3	R4	R5	R6
子ども	7,975	13,125	16,522	17,673	15,308
父・プレパパ	1,121	1,876	2,287	2,695	2,549
母・プレママ	6,791	10,270	12,460	14,010	12,092
その他	243	345	583	843	710
合計	16,130	25,616	31,852	35,476	30,569
開所日	208日	246日	244日	250日	242日

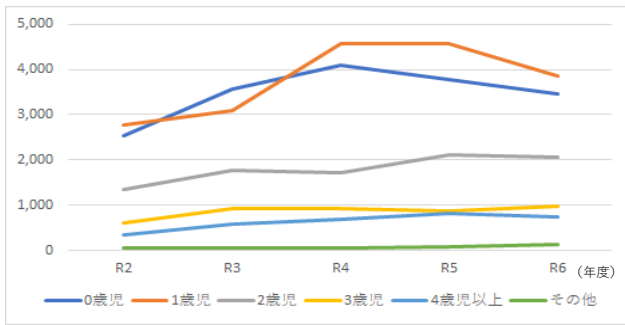
※その他/内訳：祖父母、子育てサポートシステム提供会員等

様式1-1 地域子育て支援拠点事業評価シート

◆子どもの年齢別利用者数

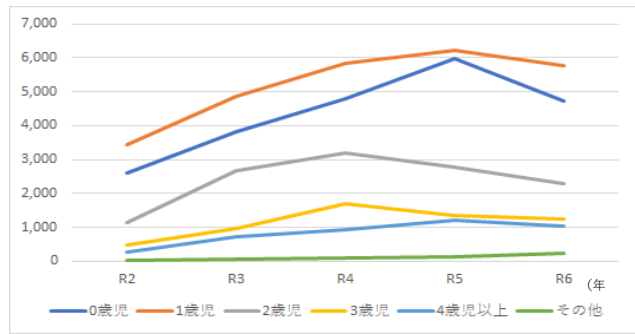
ポポラ

(人)



サテライト

(人)



I【安心・安全・心地よいひろば】

- ・緊急事態宣言中の対応について：ひろば休館中には「ちいさなしあわせのタネおすそわけプロジェクト」としてポポラ登録者を対象に往復はがきを送付し、相談窓口の周知を行うとともに、コロナ禍での体験や思いを書いて返信してもらった。拠点(※1)からの一方通行にならないよう工夫し、返信されたはがきはひろば内に掲示。利用者同士が思いを共有する機会をつくることができた。また外国につながる世帯には「やさしい日本語」「英語」で作成したはがきを送付した。
- ・感染症への不安の対策：コロナ禍以降感染症への不安からひろばを利用することに不安を感じ躊躇する方もいたため、混雑回避のため、ひろば以外の拠点スペース開放、段階的な人数制限緩和、希望時間帯で食事ができるよう配慮しながらひろば内の食事再開等を実施した。それにより、利用者から安心して過ごせたという声もあった。
- ・拠点を初めて利用する方には、名札の色を変えることで、スタッフが声をかけやすいよう工夫している。スタッフだけでなく、他の利用者にも認知され、自然と交流が生まれている。
- ・親子が安心して初めての外遊びが体験できるよう、拠点主催の公園遊びを周知した。公園遊びに参加したことで、ひろばへの初来館のきっかけにもつながった。
- ・HPやSNS等を活用してひろばやイベント、地域の様子等を発信することで、それぞれのタイミングで参加を促せるよう周知した。
- ・令和元年、サテライトが開所したことで、それまで拠点到来が困難だった南部地域の方も、拠点を利用する機会が増えており、北部、南部の利用者のすみわけが出来ている。またサテライトは区境に住む方、居住区の拠点が遠くて拠点を利用しづらかった他区在住の方々の居場所として機能している。
- ・サテライトは大型商業施設内にあることで、父親、祖父母を含め家族での利用が多くみられた。平日無料の駐車場があり雨にぬれずに来られる等、利便性の良さもあり兄弟児、多胎児の利用も多くなっている。
- ・子育てサポートシステムのひろば預かりが増え、提供会員と利用会員の子がひろばの中で過ごす機会が増加している。普段利用しているひろば内で過ごすこと、またスタッフが側にいることで、提供会員、利用会員ともに安心して過ごせる場となっている。ほかの利用者がひろば預かりを身近に感じ、預かりに関心を持ち利用するきっかけにもつながっている。
- ・安心、安全のため、ひろば内で起きたヒヤリハットを区、スタッフ間で共有。対応策を話し、ひろばにもヒヤリハットの事例を掲示することで、利用者への注意喚起も行っている。
- ・ひろば開所時間内に避難訓練を実施。避難方法の確認だけでなく、当事者の防災意識の変化も見られる場となっている。

様式1-1 地域子育て支援拠点事業評価シート

2【多様性のあるひろば】

- ・共通の話題や悩みを話しやすくするために、多胎児家族や多胎児妊娠中の方が集まる「ポポラにおいてよ ふたごちゃんみつごちゃん」の日や、障がい児のいる親子の交流の場となる「ポポラへようこそ」の日を設けている。当事者同士の交流の機会となり、安心感を感じてもらえた。イベントに参加することによって、ひろば利用につながる親子もいる。
- ・外国につながる方による「いろんな国と子育て」をテーマにした多様な物品を展示し、ワークショップを他団体との共催で開催した。企画から当事者の方が関わり、イベントの当日は進行役として活動してもらった。外国につながる方と日本の方との多様な交流が生まれ、お互いの国の子育ての違いや相手の国の文化を知るきっかけとなり、互いの理解促進となった。
- ・妊娠期から気軽に利用するきっかけづくりとして、妊娠期向けのイベント「赤ちゃんのお世話体験会」「ミルクづくり体験」「休日両親教室」等を開催。休日両親教室開催前後にひろば見学の時間を設けている。出産前に拠点見学をし雰囲気を感じてもらい、当事者同士や先輩ママパパとの交流があることで、出産後の拠点利用につながっている。
- ・妊娠中から拠点につながるのあった方のおよそ5割が、出産後、子どもの拠点登録をしている。何かきっかけがあると妊娠中にも拠点に行きやすいという声より、マタニティコーナーを設置した。
- ・日本で初めて出産をする外国につながるのある方の来所もあり、日本の子育てについて先輩ママパパの話を聞く機会が持てた。スタッフがやさしい日本語を学ぶことで、外国につながる親子と積極的な関りを持てるような雰囲気を作っている。
- ・外国につながる方を支援する「チャルラス都筑」のメンバーが月1回来所することで、多様な背景を持つ方々がひろばで共に過ごすきっかけとなり、多文化に触れる機会となった。
- ・シニアボランティアや学生ボランティア、学生インターン生がひろばで継続的に活動することで、利用者と交流が生まれ、世代間交流の場となっている。
- ・ひろばの壁をギャラリーとして活用し、生活介護事業所の方々の作品展示等を行い、地域に多様な人が暮らしていることを感じてもらえる機会をつくった。また、今まで拠点に関わりのなかった方（多様な世代、多様な背景のある方々）が気軽にひろばを訪れ、拠点利用者と交流したり、互いに興味を持つきっかけとなっている。

3【養育者と子どものニーズ把握の場】

- ・養育者と子どものニーズ把握のため、ひろば利用者アンケートやイベント開催時にアンケートを実施。
- ・利用者からの悩みやちょっとした相談から、子どもの年齢に応じた遊びの場が欲しいという声をスタッフが汲み取り、「元気っ子の日」(※2)を設けた。コミュニティルームやお茶の間サロンを開放し、集中して遊びこめるような環境をつくり、それぞれのペースで親子で遊べる場となっている。玩具の取り合い等の場面も見られるが、見守ること、お互いさまの大切さも伝えられている。また「元気っ子の日」に参加することを目的にひろばを利用する親子も増え、拠点から足が遠のいてしまった親子の利用きっかけにもなっている。元気っ子の日以外にも場所が空いている時はスタッフが判断し年齢に合わせた玩具を出して部屋の開放を行っている。
- 年齢によって遊びの場を分けて欲しいという利用者のニーズを受け、ポポラのひろばの形をL字型に変更。同じ場でありながら年齢に応じて遊びの場をすみ分けができるようになった。
- ・地域で活動している団体による読み聞かせ/お話し会を拠点で定期的に開催。それまで拠点を利用していなかった親子の来所のきっかけとなった。
- ・同じ悩みを持つ親子の交流の場が欲しいとの声から「ダウン症児親子の日」を設けた。これから子どもを産むという方からの参加希望もあった。先輩ママに相談もでき、子どもの成長など先の生活の見通しを話せる場となり、安心して子どもを育てる気持ちがもて、不安の解消につながった。
- ・「特別養子縁組のおしゃべり会」や「子どもを預けて働く家族あつまれ」、妊娠期の方と先輩家族のおしゃべり会等、当事者のニーズに応じた会を開催した。またテーマ別講座を開催し、共通課題を持つ親子が集い、情報交換や交流の場となっている。

様式1ー1 地域子育て支援拠点事業評価シート

4【親（養育者）も子も育つ場】

- ・当事者の視点から共通の話題で利用者同士のつながりがもてるよう、ひろば内に、「やってみたい・つながりたいボード」（※3）を設置し、自然な交流ができる工夫をした。「じぶん企画」として、当事者自身が発信することで、役割をもって活動する機会が生まれたり、気軽につながるツールとして活用されている。「パパ友を作ろう」「2人目育児の会」「40代ママの会」等のテーマがあり、実現に至るまでにスタッフが寄り添って対応した。開催がきっかけとなって、当事者同士がつながり、継続していくグループがあった。
- ・父親の育児参加促進を目的とした「パパといっしょにききょう公園であそぼう」「パパといっしょにカプラ（※4）であそぼう」「パパと楽しむおはなし会」「パパのアトリエ」（※5）等父親向けのイベントを開催し、父親の育児参加とひろば利用のきっかけとなっている。父親が参加しやすいよう土曜日に開催をしている。
- ・ひろばの利用者親子がイベントの準備や先輩ママパパとしてイベントに参加する等、運営に参加する機会を作った。利用者自身が役割を担うことで活躍できる場をつくっている。

（※1）都筑区子育て支援センターポポラ

（※2）2歳以上の年齢の特性に応じた遊びの場。ひろばでは出せない大型遊具や身体を使った遊び、工作や子ども同士が遊びこめる場を提供している。お互いさまの関係で見守れる場にもなっている。

（※3）「じぶん企画」のきっかけづくりとして作成。当事者が付箋にやってみたいこと等を記入し掲示。

（※4）フランスの造形積み木。すべて同じサイズで構成されていて、その長方形の板を組み合わせで遊ぶ。

（※5）コミュニティルームやお茶の間サロンを開放し廃材や工作道具等を準備し自由にお絵描きや工作ができるスペースを提供。

評価の理由（区）

- 1 拠点で土曜両親教室を実施できるよう後方支援を行うことで、妊娠期からの支援につなげることができている。また、妊娠期の方を対象にした事業について、母子健康手帳交付時にチラシを配布する等の周知を実施。
- 2 拠点の休館日を利用し、赤ちゃん会を実施し、拠点につながるきっかけを作った。
- 3 多胎児、障がい児育児等当事者に関する企画（じぶん企画）の実施について、対象者に情報提供を行った。
- 4 子育て支援者定例会、主任児童委員連絡会、こにちは赤ちゃん訪問員連絡会、地域ケアプラザコーディネーター連絡会で拠点の活動を紹介する機会を設け、周知に努めている。
- 5 定例会の場で、区は子育てアンケート結果や、こども家庭相談の件数等の共有を、拠点は利用者の生の声・様子、拠点で実施しているアンケート結果等を共有することで、相互に親子のニーズを把握する場となっている。
- 6 定例会等を通じ、ひろばの環境や安全面の確保及び事故等にかかる報告を受け、確認及び助言を適宜行った。

拠点事業としての成果と課題

（成果）

- ・サテライトが、拠点に来所困難な南部エリアの方にとっての居場所となった。生活圏が異なる北部・南部エリアそれぞれに拠点を設け、地域の実情に即した居場所となる。
- ・拠点の事業を通して、当事者同士でつながりにくい方々（障がい、多胎、里親、特別養子縁組等）がつながるきっかけを作った。また、当事者の方の現状把握やニーズを収集する場にもなり、その後のひろば事業に活かすことができた。
- ・多文化、多世代、多様な暮らしや子育てを紹介する展示を通じて、多様な人々が集える居場所づくりを推進した。親子だけでなく地域の方が拠点を訪れ、交流するきっかけとなった。
- ・子どもの年齢・月齢に応じた遊びの環境設定を工夫することで、2歳児以上が拠点に来所するきっかけがうまれ、継続した居場所となっている。
- ・学生やボランティアが拠点に関わることで、ひろばの中で多世代の方々との関係や交流が生まれた。

（課題）

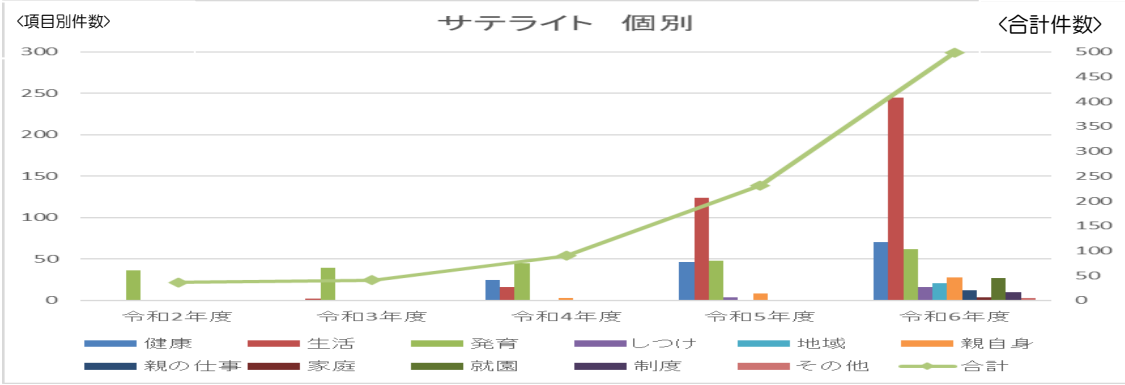
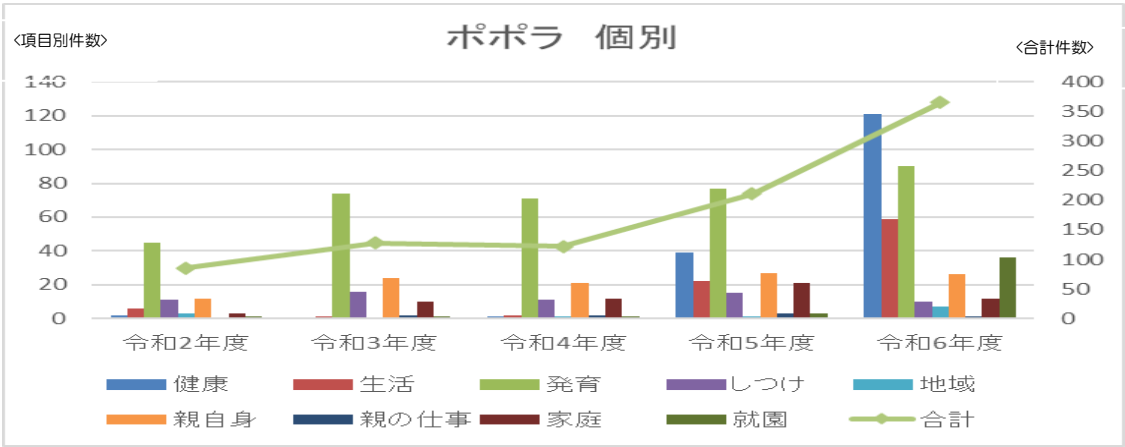
- ・引き続きひろばで把握したニーズを拠点のみならず、地域の支援の場につなげていくことが必要。
- ・子どもの育ちや月齢に応じた遊びの環境がより整理されるように、居場所づくりについて工夫し、他団体の力も借りながら拡充をしていく。
- ・社会の中で孤立しがちな方や、支援のつながりの切れ目になる方々が孤立せず、地域の中で互いに関係を築きながら、支援が受けられる仕組み作りが必要である。
- ・利用者がひろば運営に参画し活躍できる環境となるよう、仕組みや仕掛けを整えていく。
- ・社会状況が変化し、家族の形の多様化やライフスタイルの変化等が進む中で、地域差や家族ごとのニーズに柔軟に対応できるよう、地域全体のニーズや課題を継続的に把握していく必要がある。

2 子育て相談事業

目指す拠点の姿	(参考)3期目振り返りの課題	自己評価(A~D)	
		法人	区
①養育者とスタッフとの間に安心して相談できる信頼関係ができ、気軽に相談ができる場となっている。	・拠点での専門相談について区役所と連携し、各々の相談機能について理解を深め、相談機能の分担を考えていく必要がある。	A	A
②相談を受け止め、内容に応じて、養育者を関係機関につなげている。また、必要に応じて継続したフォローができています。		A	A

評価の理由(法人)

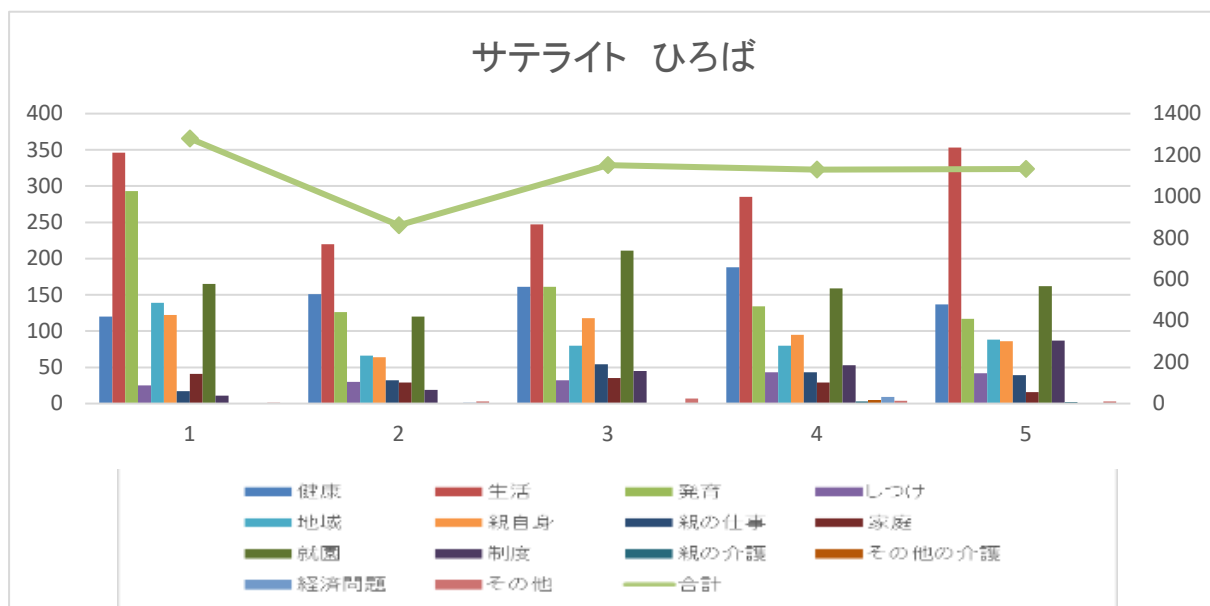
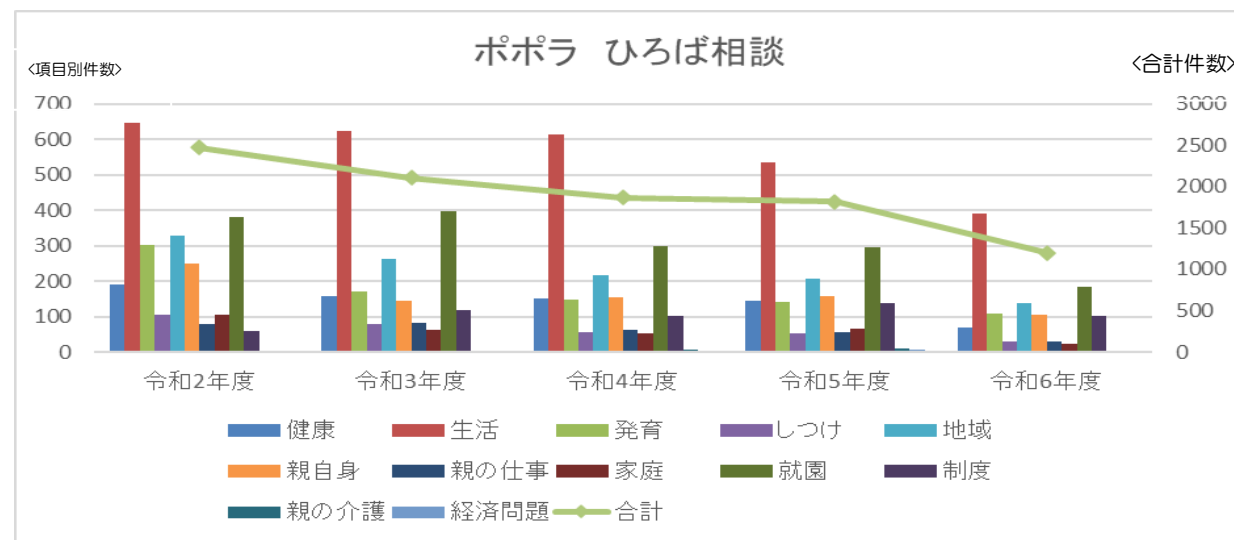
(主なデータ)
<相談件数>
専門相談：臨床心理士、言語聴覚士、助産師、歯科衛生士、障がいのある子や外国につながりをもつ子の子育てをしているピア相談員による相談等



※令和6年度より、助産師、歯科衛生士、保育教育コンシェルジュへの相談を専門相談件数を計上

様式1-2 地域子育て支援拠点事業評価シート

ひろば相談:ひろばスタッフによる相談 (栄養士、障がいのある子、アレルギーのある子を育てている先輩ママ等)



※ひろば相談では、生活のことに関する相談がどの年度でも最も多い。ポポラのひろば相談は、令和2年度をピークに件数としては減少しているが、コロナ以前の状況に戻りつつあり、拠点以外の場所で相談ができていとも考えられる。サテライトのひろば相談は、令和4年度からほぼ横ばいとなっており、ひろばでの気軽な相談が定着していると考えられる。

様式1-2 地域子育て支援拠点事業評価シート

1【気軽に相談の場】

・初めて拠点やサテライトを利用する方等に相談事業の仕組みについて、予約の有無や予約方法、相談場所など丁寧な説明を行っている。

・利用者から相談や質問、問い合わせが多い内容について、情報ファイルやロコミファイル等を、利用者が気軽に手にとれるようにひろばに設置。ひろばやお茶の間サロンに妊娠期の方向けのコーナーを作成。結果、利用者同士の交流や情報交換、利用者とスタッフが会話をするきっかけとなり、相談にもつながっている。

・幼稚園や保育所の入所等に関して、区の保育・教育コンシェルジュの相談の場を設けた。区の相談窓口に足を運びにくい方や、祖父母、これから親になる方等の子育て当事者以外にも保育・教育コンシェルジュの周知ができ、相談につながる機会が増えた。

・子育てと仕事探し/養育者のキャリア形成をテーマに、関係機関と説明会や個別相談を実施。専門的な機関へつながる前の気軽に相談の場を提供した。

・助産師や歯科衛生士といった専門相談員や、ピア相談員がひろばにいる日を設定し、予約不要でもひろばでの相談に応じた。拠点だけでは対応が難しい相談や、医療機関等専門的な機関へつながる前の相談の場として、拠点で気軽に相談できる場を設けた。相談内容や子の月齢、家族の置かれている背景など必要に応じて区の相談につないだ。

・保育ボランティアや学生にひろばやイベント参加を促し、子育て中の親子・養育者が交流できる場をつくった。結果、スタッフ以外と会話する中で新たな気づきが生まれ、スタッフへの相談につながるきっかけとなった。

・「なるほどトーク」(※6)では、妊娠期の方や養育者の興味関心が高いテーマで実施。区の講座等と開催時期を調整し、子どもの発達や成長にあわせて参加ができるよう日程を設定。講師と講座内容や開催回数なども検討し、妊娠期の方や拠点を利用していない親子や地域の支援者等にも、拠点での相談をより身近に感じてもらうきっかけ作りを行った。

テーマ:「赤ちゃんのころを知ろう」「ことばの始まり」「イヤイヤ期の受け止め方」「癪癪の取り扱い方」「見え方聞こえ方から知る赤ちゃんの世界」

<令和6年度>

全9回開催 48組参加 (内訳 母47人、父20人 妊娠3組5名)

(※6)専門相談員によるミニ講座付きの座談会

2【安心して相談できる場】

・「情報サロン」や「和室」「お茶の間サロン」等ひろば以外での相談や、拠点に来所困難な方の電話での対応等、相談者が話しやすいタイミングや安心して相談ができる環境で相談に応じた。

・母親だけでなく、父親や祖父母、里親等多様な背景をもつ養育者からの相談に応じた。

・ひろばで養育者や子どもの様子を見守りながら、ゆっくり時間をかけて寄り添い傾聴することで、会話の中から相談につながる人が多い。また、親の就労や子どもの就園等で拠点のひろば利用が減った後もスタッフが丁寧に寄り添い、安心して相談できる場となっている。

・子どもの発達についての悩みから言語聴覚士の言葉の相談につながり、養育者が日々の子どもとの関わり方を学ぶ場となっていた。その後子どもの発達についての相談へつながることもあった。また、拠点の専門相談から、区の発達相談や医療機関、利用者支援事業につながることもあった。

・ひろばスタッフに英語や中国語を話せるスタッフを配置し、ひろばにいる日を周知した。外国につながりをもつ子どもとその養育者からの相談に応じ、地域のコミュニティや専門機関等を紹介した。増加傾向にある多国籍の利用者が安心して気軽に相談できる場となっている。

・父親対象のイベント等に、男性ボランティアへの協力を依頼。父親が気軽に相談しやすい雰囲気づくりを行った。

・専門相談員との振り返りを行い、相談内容や支援方法をスタッフで共有し、ひろばや地域での見守り、相談業務に活かした。

3【関係機関との連携】

・相談内容や相談者の背景に応じて、区や、利用者支援事業・横浜子育てサポートシステム、地域の支援機関・団体につなぎ、継続した支援ができるように対応し、関係機関と連携して見守った。

・地域のネットワークを活かし、妊娠期から切れ目のない支援や、継続的な見守りにつなげることができた。

・区で開催している保育所入所説明会に、スタッフが参加。認可保育所の種類・申請の流れといった基礎的な情報や認可保育所以外の保育サービス等について理解し、日ごろの業務に活かした。また、ひろばでの相談内容によっては、区の保育教育コンシェルジュの相談を紹介した。

・相談内容や子どもの月齢、家族の置かれている背景など必要に応じて、利用者支援事業で引き続きフォローをしたり、子育てサポートシステムへつないだ。

・相談者の居住区によっては横浜子育てパートナーにつなぎ、他区の保健師・横浜子育てパートナー等を紹介した。

・専門的な支援が必要なケースにおいては、区の発達相談を案内したり、療育機関等の情報提供を行い、継続的な支援が受けられるよう支援した。

様式1ー2 地域子育て支援拠点事業評価シート

4【周知】

・相談事業専用のチラシやひろばの掲示を作成。地域の子育て支援関係者の定例会や、区内の両親教室等で、利用者が安心して相談を受けられる場として、拠点の相談機能を周知した。区内の子育て支援施設や保育所、医療機関等から専門相談に繋がる方もいた。

・相談日をひろばや拠点広報誌（ポポラペーパー）、Instagramでわかりやすく伝え、X（旧：Twitter）でのリアルタイムな周知に努めた。拠点広報誌やSNSを利用した周知により、拠点利用者以外からの相談にもつながっている。

評価の理由（区）

1 事業の周知のため、チラシやポポラペーパーをこども家庭支援課窓口や乳幼児健診会場に配架し、両親教室では相談事業を説明する時間も設けた。

2 様々な課題を持つ親子の状況に応じ、個別性に合わせて、専門相談等を案内し、拠点の利用を促した。また、拠点から専門的対応が必要なケースの引継ぎがあった際はスムーズに継続的な支援が受けられるよう調整した。

3 定例会や子育てパートナーカンファレンス等でこども家庭相談の件数・傾向、区で行っている事業を共有したり、拠点の相談事業の現状を把握し、対応等の助言を行った。

4 連携してプライバシーに配慮したケース対応ができるよう、個人情報保護研修を行った。

5 拠点でも相談の機会がもてるよう、福祉保健課の協力で歯科衛生士を派遣したり、教育コンシェルジュによる保育園情報の提供・相談等を行った。

拠点事業としての成果と課題

（成果）

・妊婦、特別養子縁組家庭、里親、育てにくさ（発達、虐待）、外国につながりをもつ家庭等、様々な背景をもつ方が、安心して気持ちや不安を話せる場となっており、ひろば相談や専門相談を通じて、他事業（横浜子育てサポートシステム、人材育成、利用者支援）、区や他施設へとつながるきっかけにもなっている。

・妊娠期から子育て期にかけて拠点のひろばや地域で子やその家族に丁寧に寄り添ったことで、子どもが就学した後も養育者にとって気軽に安心して相談できる場となっている。

・拠点の相談機能について、地域の子育て支援関係者の理解を深める取り組みを行い、日ごろ拠点の利用がない親子が相談につながる機会が生まれている。拠点の相談機能利用後、地域の関係施設と継続した見守りにつながっている。

・区と拠点が協働することで、養育者が相談しやすい場所を選択することができている。また、必要に応じて、より専門的な相談機関へとつながっている。

（課題）

・拠点での個別相談のニーズが高まっている状況にあるため、より適切な相談機関や地域資源に繋がられるよう、区や地域との連携をより深めていく必要がある。

・社会状況の変化に合わせて、必要と思われる相談機関の機能について理解を深めていく。

3 情報収集・提供事業

目指す拠点の姿	(参考)3期目振り返りの課題	自己評価(A~D)	
		法人	区
①区内の子育てや子育て支援に関する情報が集約され、養育者や担い手に向けて提供されている。	・紙情報を手渡ししていくことを大切にしているが、更新作業負担が大きいことを踏まえて情報発信の仕方、伝え方の工夫を検討し続けていく必要がある。 ・養育者の情報発信の場を増やしていく。	A	A
②子育てや子育て支援に関する情報の集約・提供の拠点であることが、区民に認知されている。		A	A
③拠点の情報収集、発信の仕組みに、養育者や担い手が積極的に関わっている。		A	A

評価の理由(法人)

(主なデータ) R6年度

<拠点広報誌(ポポラペーパー)> 3,500部/隔月発行

<情報ツール一覧>

HP	全体	拠点の基本情報 (拠点事業内容・カレンダー・妊娠期の方向け 他)
	お知らせ	カテゴリ別情報 (「ポポラ」「ポポラサテライト」「横浜子育てサポートシステム」)
	地域のお知らせ	ネットワークを活かし得た情報 (地域のイベント、他施設からの掲載依頼)
	ブログ	拠点のイベント等の開催報告 (Instagramへ移行予定)
X(旧Twitter)		タイムリーな情報発信 (地域のイベントや募集中のイベント等)
Instagram		拠点内の情報/アカウントを「ポポラ」「ポポラサテライト」に分けている (イベント参加募集、開催報告、ひろばの様子等)

<Instagramフォロワー数> (R6/5/1開設)

ポポラ:529人 ポポラサテライト:450人

<X(旧Twitter)>フォロワー数推移

R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
1,501人	1,721人	2,013人	2,244人	2,255人

<PR BOXの活用>

地下鉄の駅での拠点広報誌・チラシ等の配架 8ヶ所 (2ヶ月に1回配架)

様式1-3 地域子育て支援拠点事業評価シート

1【情報の集約、提供】

- ・地域のサロンや公園遊びへの参加など、ネットワーク活動を通じて地域の情報を収集し、地域のイベント開催情報や当日の実施状況等を、ひろばやHP・X等を通じて情報を提供している。
- ・各エリアのネットワーク活動の中で、地域の子育て情報をまとめた地域子育てMAPの作成、更新に協力している。
- ・都筑区民まつりや、地域のおまつりへ参加し、子育て世代だけでなく幅広い世代の区民に対して、拠点の周知や、拠点が収集した地域の子育て情報の提供を行っている。
- ・自治会や公園愛護会などが行っている地域の活動へ参加し、地域の情報を収集したり、拠点情報の周知を行っている。
- ・こんにちは赤ちゃん訪問員の定例会・母子訪問員定例会等、地域で活動する支援者の会合に出向き、拠点の紹介等を行い、地域の支援者を通じて、必要な方へ情報が届くように協力を依頼している。
- ・拠点広報誌に地域情報などを掲載。子育て世代のみでなく、地域の方に向けての情報発信も行っている。

2【来所困難な方への情報提供】

- ・来所困難な方がHPやSNSを通じて必要な情報が入手できるよう、当事者の声を聞きながら、ニーズに合わせて、HPのリニューアルを検討したり、使用するSNSのツールを見直しを行っている（HP,Xに加えInstagramを開始）
- ・外国につながる方が拠点の情報を調べたり、地域の子育て情報が入手しやすくなるよう、外国人支援をしている団体と一緒に、外国につながる子育て中の方へのヒアリングを行った。
- ・地下鉄の駅のPR BOXを活用し、拠点広報誌やチラシを配架している。
- ・地域の企業と連携したイベントの開催などを通じて、生活圏であるショッピングモール内で拠点の機能や子育て関連の情報を周知。拠点に足を運ばなくても必要な情報を得ることができるよう、工夫している。
- ・産院や児童発達支援事業所等の利用者が拠点を利用するきっかけになるよう、拠点広報誌やイベント等のチラシ配架を施設に依頼。施設に合わせて配架するチラシを選択する等の工夫をしている。

3【情報提供の工夫】

- ・外国につながる方が参加しやすいイベントのチラシ（公園遊び等）を「やさしい日本語」と「英語」で作成した。また、電話での申込みが困難な外国につながる方向けのイベント申込みにWebの申込フォームを活用する等、必要な方へ情報が届きやすいよう工夫をしている。
- ・両親教室や子育てサポートシステム説明会など、定期開催されるイベントの申込をWebからできるように変更。夜間の申込や、キャンセル待ちがしやすくなり、利用者の利便性につながっている。
- ・妊娠期の方向けのチラシを母子健康手帳に入るサイズで作成したり、産後に必要な情報は、必要な時期に最新の情報にアクセスできるようHPへアクセス可能な二次元コードを掲載する等、利用者目線で使いやすいチラシになるように工夫をしている。
- ・休日両親教室の際、拠点・地域ケアプラザそれぞれで同じ内容を提供できるよう、拠点・区で資料を作成し、実施している。また、地域情報については妊婦・パートナーの状況に応じた情報提供をしている。
- ・情報発信の媒体を、届けたい対象によって変える等の工夫を行っている。（妊娠期/横浜市子育て応援アプリ「パマトコ」の活用等）
- ・情報サロンのレイアウト変更等を実施。ひろばの中からも、外からもチラシを自由に閲覧できるよう配架場所を変更した。
- ・情報サロンに設置されているデジタルサイネージで、当月のイベント情報をスライドで配信したり、地域の子育て関連の情報をタッチパネルでまとめて見られるようにするなど、スタッフを介さなくても利用者自身が最新の情報を入手しやすい工夫をしている。
- ・HPに「子サポのお知らせ」を追加。会員のみでなく、会員以外の方に対しても、横浜子育てサポートシステムの情報をタイムリーに発信できる仕組みを作った。

4【養育者と共に情報を発信する仕組み】

- ・養育者自身が地域の情報収集、取材等を行った、区内の地域情報を掲載した「つづきチルコロMAP（※7）」の企画、編集等を行った。
- ・ひろば利用者から要望の多かった情報（幼稚園・保育園・児童発達支援事業所・地域情報等）を、ひろば利用者から収集し、「ロコミ情報」として提供している。
- ・転入者が多い都筑区の特徴をふまえ、地域の方やひろば利用者から地域のロコミ情報を収集し、提供している。
- ・養育者自身が情報を発信したり、収集できるきっかけづくりとして「やってみたい・つながりたいボード」を設置。養育者自身の情報交換の場としても活用されている。

（※7）地域別に子育てに役立つ情報と地図を掲載した子育てMAP

様式1-3 地域子育て支援拠点事業評価シート

評価の理由(区)

- 1 養育者が子育てに関する情報を得やすくなるよう、拠点広報誌の配架・配布（赤ちゃん会、子育て支援者会場、こども家庭支援課、乳幼児健診会場等）に積極的に協力をした。
- 2 養育者に子育ての情報提供や相談の場を案内できるよう、定例会の場で区・拠点の事業を共有している。
- 3 子育て世帯へのアンケートを実施し、子育て世帯が必要なニーズをとらえ、拠点と共有した。
- 4 各地域の子育てカレンダー・子育てマップの作成・更新に区も参加し、地域の支援者主体の情報発信がされるようサポートを行った。また、赤ちゃん会、訪問等で周知を実施している。

拠点事業としての成果と課題

(成果)

- ・HPやXに加え、利用者のニーズに合わせて新たにInstagramの開設。また、横浜子育て応援アプリ「パマトコ」を活用する等、適宜最新の情報を利用者に届けられるよう、情報発信の仕方を工夫できた。
- ・「じぶん企画」として、養育者自身で交流の機会や企画を作り、それぞれが自らの持つ情報などを伝え合う機会を設けられた。
- ・地域から提供されたチラシや、コロナ禍においては他施設の利用情報を収集しHPに掲載する等、拠点以外の施設の情報もHPやXで発信できた。
- ・自治会や企業と連携して拠点の情報等を発信する機会を設け、拠点に足を運んだことの無い方や地域の方など、広く区民に子育て支援拠点の役割を周知できた。

(課題)

- ・児童発達支援事業所など養育者が求める情報に変化があるため、養育者のニーズを把握し続ける必要がある。
- ・紙のチラシの配布についてやHP・X・Instagramでの情報発信方法、イベント内容によってWebの申込を活用するなど、当事者ニーズに合わせて、常に情報発信方法や使用するツールを見直し続ける必要がある。

4 ネットワーク事業

目指す拠点の姿	(参考)3期目振り返りの課題	自己評価(A～D)	
		法人	区
①地域の子育て支援活動を活性化するためのネットワークを構築・推進している。	・区内各エリアに合ったきめ細かい対応を地域の方に寄り添って一緒にすすめていく必要がある。	A	A
②ネットワークを活かして、拠点利用者を地域へつないでいる。	・今後の区全体でのネットワークのあり方について検討していく必要がある。(ネットワーク会議の持ち方、エリア分けの空白部分への対応等)	A	A

評価の理由(法人)

(主なデータ)R6年度

<子育てネットワーク会議>(※8)参加団体数:第1回17団体/24名、第2回22団体/26名

<子育てネットワーク交流会>(※9)

	テ ー マ	参加者数
R2年度	これからの妊娠出産子育て ～オンラインとリアルを使ったサポート～ (YouTube配信)	—
R3年度	妊娠期から地域につなげる支援の取り組み	95名
R4年度	妊娠期からの子育て支援 ～つづきにまちで、安心して子育てできる仕組みを 具体的に考えてみよう!～	87名
R5年度	子育てを地域で支援するとは	80名
R6年度	私たちの街の防災を考える ～地域子育て支援の視点から～	93名

<地域の公園あそび・サロン>開催回数・参加人数>

エリア	事業名	開催数/ 予定数	参加組数 (のべ)	支援者参加者数 (のべ)
山田	山田富士公園であそぼう!	8回/10回	74組	47人
中川	タンポポひろば	12回/12回	77組	102人
勝田・茅ヶ崎	わいわい子育てサロン	回/11回	93組	66人
荏田	外あそびいく・青空赤ちゃん会	10回/10回	82組	76人
都田	都田地区子育てサロン	4回/4回	30組	73人
	都田地区子育てサロン(日曜開催)	1回/2回	平日参加が難しい方のための 日曜開催(四季のコンサート) 参加者:76人(支援者含む)	
川和・都筑ふれあいの丘	かわわ★わーい	12回/12回	86組	55人
川和・都筑ふれあいの丘	あそびの広場～第九公園で遊ぼう～	8回/12回	22組	56人
佐江戸・加賀原	ぎんなん公園であそぼう!	9回/10回	63組	77人
池辺	下敷根公園公園であそぼう!	10回/10回	75組	60人

様式1-4 地域子育て支援拠点事業評価シート

<あつまれ都筑のニューフェイス> (※10)

	開催会場数 (年2回開催)	参加組数
R2年度	11会場	98組
R3年度	14会場	221組
R4年度	15会場	225組
R5年度	16会場	249組
R6年度	18会場	239組

OR2年度春:新型コロナウイルス感染拡大防止のため全13会場中止。秋のみ開催。

(※8) H20年度より開催。区内子育て支援施設の連携会議。

R6年度参加団体:親と子のつどいの広場、地域ケアプラザ、市立保育園、横浜市北部地域療育センター、つづき地域活動ホームくさぶえ、区社会福祉協議会、区地域振興課、区こども家庭支援課、拠点。

(※9) H22年度より開催。区内の子育て支援関係者で行っている交流会。

R6年度参加団体:こんにちは赤ちゃん訪問員、子育て支援者、保健活動推進員、主任児童委員、乳幼児一時預かり施設、親と子のつどいの広場、地域ケアプラザ、地区センター、コミュニティハウス、市立保育園、私立保育園、横浜市北部地域療育センター、つづき地域活動ホームくさぶえ、区社会福祉協議会、区地域振興課、区こども家庭支援課、拠点。

(※10) 区内に転入してきた親子向けイベント。ネットワーク会議より発足し、区内子育て支援施設等、各所で開催している。参加団体:親と子のつどいの広場、地域ケアプラザ、市立保育園、子育てサロン、鴨池公園こどもログハウス、つづき地域活動ホームくさぶえ、拠点。

1【関係機関・他団体・企業とのネットワーク構築と推進】

・「子育てネットワーク会議」では、各施設の活動状況を踏まえながら、区全体の課題を共有。必要な取組の検討、実行に向けての体制作りを実施している。令和5年度より、地域での障がい児支援の強化を図るため新たに2施設(横浜市北部地域療育センター、つづき地域活動ホームくさぶえ)が参加。

・「子育てネットワーク交流会」を開催。継続して開催していることで、参加団体も広がり顔の見える関係づくりから課題の共有、エリア活動の展開が行われており、ネットワーク活動が強化されている。R6年度はテーマを防災にすることで、子育て支援関係者のみならず様々な方や施設とのつながりが生まれた。

・都筑区地域福祉保健計画推進委員会や、子ども・困窮世帯支援関連団体情報交換会等、区内の関連団体が参加している会議に出席。それぞれの機関が持っている情報を収集すると共に、相互の情報交換を行っている。

・他施設、他団体等の関係機関と連携をし事業を行った。拠点だけでは不足している支援体制の充実や互いの置かれている状況等の相互理解を深め、社会状況に合わせて継続的に様々な関係機関との連携強化を行っている。(里親支援/フォスターリング機関さくらみらい、障害のある子を育てている家族の支援/横浜市北部地域療育センター・地域訓練会、外国につながるのある方とのワークショップ開催/NPO法人Sharing Caring Culture(※11)等)

・NPO法人アクションポート横浜(※12)と連携することで、若者等の異なる視点から子育て支援活動の活性化に努めている。

・大型商業施設を運営する東急不動産(株)・東急不動産SCマネジメント(株)や三井不動産(株)と連携協定等を通して、企業連携を行った。子育てを地域で支える風土づくりを進めている。

・Tsuzuki International Friendship (TIF) (※13)を発足。連携を基盤とした新たな共生社会の実現を目指して、3者連携会議を行った。協力団体や企業、区の課を超えた連携等も広がっている。令和5年度より国籍、障害のあるなしに関わらず、様々な人が出合い、楽しめる場として、DE&Iフェスティバルを開催。来場者4,000人、関係団体46団体/433名が参加。イベント実施等を通じて、外国につながる家族の子育てや暮らし、多文化共生等、都筑区内に色々な人が暮らしているということを実感できるきっかけとなった。

様式1-4 地域子育て支援拠点事業評価シート

2【ネットワークを活かし、利用者のニーズに合わせた地域へのつながり】

・地域のつながり、区内の顔の見える関係づくりを目的にエリアごとに担当者をおき、拠点スタッフが公園遊び、子育てサロン、おまつり、子育て情報MAP制作等の活動に参加している。ネットワークを活かし、拠点利用者を丁寧に地域につなぎ、地域の支援者と共に養育者に寄り添うことができている。

・連合自治会の活動（おまつり・防災拠点訓練・自治会主催のイベント等）にも積極的に参加をし、利用者を丁寧に地域へつないでいる。子育て世帯が地域の活動を知り、また地域の方にも子育ての現状などを知ってもらう等、相互理解の橋渡しとなるようなきっかけづくりを行った。

・拠点利用者（外国につながる方や障がいをもつ子どもを育てている方等）に地域で活動している団体等を紹介し、丁寧につながりを行っている。また当事者が支援することに興味のある場合にも団体へのつながりを行っている。

・転入者が多い区の特性を考慮し、地域ケアプラザ、子育てサロン、親と子のつどいの広場等と協力し、「あつまれ～都筑のニューフェイス」を区内18会場で開催。区内全域で開催をしていることで、新しい施設や団体が会場として参加しやすく、転居してきた家族がより足を運びやすくなっている。

（※11）在住外国人支援をしているNPO法人。

（※12）若者とNPOをつなぎ、地域を盛り上げていくことを目標としたNPO法人。

（※13）都筑多文化・青少年交流プラザ（通称：つづきMYプラザ）、NPO法人Sharing Caring Culture、拠点の3者事業連携会議。

評価の理由（区）

- 1 子育て支援拠点と協働し、子育てネットワーク会議を年2回実施。地域課題や各地域での取組について共有できるよう努めた。また、地域での課題に合わせ、参加者の拡大を図った。
- 2 子育てネットワーク交流会を継続して実施。支援者同士が顔を合わせ、お互いの活動を認め、確認できる場となっている。また、講師を招いての研修実施により、知識・スキル向上と課題を解決するための学びの場ともなっており、参加者から高い満足度を得られている。
- 3 地域での取り組みを子育てネットワーク交流会を通して共有することで、他の地域での取組に広げられた。
- 4 拠点と企業・団体との連携において、間に入り調整等を行った。
- 5 区の赤ちゃん会のチラシを見直し、地域の遊び場情報を掲載し、市民に幅広く周知できるよう工夫した。
- 6 エリア内の外あそびの会が地域の中で継続的に実施できるよう関連機関と調整を支援した。

拠点事業としての成果と課題

（成果）

・子育てネットワーク交流会、ネットワーク会議を継続して開催していること等から、各地域のネットワークが活性化し、顔の見える関係づくりの強化のみならず、互いの取組を深く理解する機会となっている。また、地域情報を共有することで見えてきた地域課題を共有し、解決に向けた相談をする場となっている。

・企業や団体との連携を強化し、子育てにやさしいまちづくりの基盤や支援体制の充実を図った。

・ネットワークを活かして地域との関係性を深め、拠点利用者を地域につなぐことができた。また、その後も支援者と共に地域で親子を見守ることができている。

（課題）

・区全体で共通している課題について、各地域を巻き込んで課題解決に取り組んでいけるよう活動を支援していく必要がある。

・多様な地域の課題ごとの課題に合わせて、地域の方に寄り添い、より支援の充実と一緒に進めていく必要がある。

・各種課題解決のために様々な手法を取り入れることも検討し、施設、団体、企業等とさらなる連携強化を図り、お互いの立場を確認しながら支援の充実を目指していく。

5 人材育成・活動支援事業

目指す拠点の姿	(参考) 3期目振り返りの課題	自己評価 (A～D)																																																																																																																	
		法人	区																																																																																																																
①地域の子育て支援活動を活性化するため、担い手を支えることができています。	・新たな担い手育成のためには時間が必要であり、活動に参加される方の意思をくみ取りながら継続して寄り添っていく。 ・子育て支援に関心のあるより多くの方が活動に参加するきっかけづくりをどのように進めていくのか、検討が必要である。	A	A																																																																																																																
②養育者に対して地域活動の大切さを伝えとともに、地域の子育て支援活動に関心のある人が、活動に参加するきっかけを作っている。		A	A																																																																																																																
③広く市民に対して、子育て家庭を温かく見守る地域全体での雰囲気づくりに取り組んでいる。		B	B																																																																																																																
④これから子育て当事者となる市民に対して、子育てについて考え、学び合えるように働きかけている。		B	A																																																																																																																
評価の理由(法人)																																																																																																																			
<p>(主なデータ)</p> <p><ポポ☆メイト実績> (※14)</p> <table><tr><th></th><th>令和2年度</th><th>令和3年度</th><th>令和4年度</th><th>令和5年度</th><th>令和6年度</th></tr><tr><td>登録数</td><td>－</td><td>39人</td><td>41人</td><td>47人</td><td>64人</td></tr><tr><td>新規登録者数</td><td>－</td><td>4人</td><td>3人</td><td>6人</td><td>9人</td></tr><tr><td>活動回数</td><td>10回</td><td>18回</td><td>10回</td><td>57回</td><td>49回</td></tr></table> <p>※集計開始:令和3年度</p> <p><じぶん企画></p> <table><tr><th></th><th>令和4年度</th><th>令和5年度</th><th>令和6年度</th></tr><tr><td>企画数</td><td>20回</td><td>28回</td><td>16回</td></tr><tr><td>参加組数</td><td>175組</td><td>240組</td><td>106組</td></tr></table> <p><学生・実習生の受入人数></p> <table><tr><th>令和2年度</th><th>令和3年度</th><th>令和4年度</th><th>令和5年度</th><th>令和6年度</th></tr><tr><td>5人</td><td>0人</td><td>14人</td><td>70人</td><td>54人</td></tr></table> <p>※令和3年度:コロナのため受入れなし</p> <p><両親教室></p> <table><tr><th></th><th>令和2年度</th><th colspan="2">令和3年度</th><th colspan="2">令和4年度</th><th colspan="2">令和5年度</th><th colspan="3">令和6年度</th></tr><tr><th></th><th>ポポラ</th><th>ポポラ</th><th>サテライト</th><th>ポポラ</th><th>サテライト</th><th>ポポラ</th><th>サテライト</th><th>ポポラ</th><th>サテライト</th><th>ケアプラザ</th></tr><tr><td>参加組数</td><td>31組</td><td>140組</td><td>131組</td><td>144組</td><td>118組</td><td>141組</td><td>82組</td><td>133組</td><td>112組</td><td>57組</td></tr><tr><td>プレママ</td><td>31人</td><td>140人</td><td>131人</td><td>143人</td><td>118人</td><td>138人</td><td>118人</td><td>132人</td><td>110人</td><td>56人</td></tr><tr><td>プレパパ</td><td>30人</td><td>138人</td><td>129人</td><td>143人</td><td>116人</td><td>136人</td><td>116人</td><td>129人</td><td>112人</td><td>55人</td></tr><tr><td>計</td><td>70人</td><td>278人</td><td>260人</td><td>286人</td><td>234人</td><td>274人</td><td>234人</td><td>261人</td><td>222人</td><td>111人</td></tr></table> <p>(※14) 地域の方が参加できるポポラのボランティア。好きなことや得意なことを活かし、写真撮影や季節の工作イベント、イベントでの見守り保育等で活動中。定例会/毎月1回程度開催。</p> <p>1【担い手を支える】</p> <p>・「子育てネットワーク交流会」を毎年継続して開催。講師を招き、活動のヒントをもらう等の学びの機会を作った。支援者同士の情報共有と交流の場を設け、顔の見える関係づくりを行っている。R6年度は地域子育て支援の視点から「自分の街の防災を考える」という講義を通して、各支援者が防災拠点ごとに災害時の支援活動の課題を整理し、地域課題を見つける場となった。また、防災意識の向上にもつながっている。</p> <p>・拠点スタッフが地域に足を運び一緒に活動を行う中で、支援者に丁寧に寄り添い、地域で過ごす親子への支援を共に考えながら活動をサポートしている。</p> <p>・こんにちは赤ちゃん訪問員へ拠点の周知を行い、情報を提供することで、訪問員の活動支援につながっている。</p> <p>・拠点の利用者だけではなく、子育て支援に興味関心のある方等には、活動のきっかけを提供している。</p> <p>・地域の子育て支援団体が行っているイベント(お話し会等)を拠点でも実施することで、利用者が地域での活動を知る、地域の支援者とつながるきっかけづくりの場となるようサポートしている。</p>					令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	登録数	－	39人	41人	47人	64人	新規登録者数	－	4人	3人	6人	9人	活動回数	10回	18回	10回	57回	49回		令和4年度	令和5年度	令和6年度	企画数	20回	28回	16回	参加組数	175組	240組	106組	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	5人	0人	14人	70人	54人		令和2年度	令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度				ポポラ	ポポラ	サテライト	ポポラ	サテライト	ポポラ	サテライト	ポポラ	サテライト	ケアプラザ	参加組数	31組	140組	131組	144組	118組	141組	82組	133組	112組	57組	プレママ	31人	140人	131人	143人	118人	138人	118人	132人	110人	56人	プレパパ	30人	138人	129人	143人	116人	136人	116人	129人	112人	55人	計	70人	278人	260人	286人	234人	274人	234人	261人	222人	111人
	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度																																																																																																														
登録数	－	39人	41人	47人	64人																																																																																																														
新規登録者数	－	4人	3人	6人	9人																																																																																																														
活動回数	10回	18回	10回	57回	49回																																																																																																														
	令和4年度	令和5年度	令和6年度																																																																																																																
企画数	20回	28回	16回																																																																																																																
参加組数	175組	240組	106組																																																																																																																
令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度																																																																																																															
5人	0人	14人	70人	54人																																																																																																															
	令和2年度	令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度																																																																																																											
	ポポラ	ポポラ	サテライト	ポポラ	サテライト	ポポラ	サテライト	ポポラ	サテライト	ケアプラザ																																																																																																									
参加組数	31組	140組	131組	144組	118組	141組	82組	133組	112組	57組																																																																																																									
プレママ	31人	140人	131人	143人	118人	138人	118人	132人	110人	56人																																																																																																									
プレパパ	30人	138人	129人	143人	116人	136人	116人	129人	112人	55人																																																																																																									
計	70人	278人	260人	286人	234人	274人	234人	261人	222人	111人																																																																																																									

2【養育者を支える】

- ・当事者同士つながりにくい方々(※15)が交流できる場を多数開催。当事者同士で気兼ねなく話せる場となっており、様々な参加者と関わることで、養育者が地域を身近に感じられるようになっている。また、養育者が拠点の利用や交流の場を通じて、地域の様々な活動に関心をもち、自分自身が役割をもって地域活動に参加するきっかけも生まれている。
- ・「ダウン症児親子の日」は、先輩当事者の助言を元に開催。イベント当日は、当事者ならではの目線で参加者に寄り添うことができ、参加者同士が安心してつながる場となった。
- ・「じぶん企画」では、当事者自身が“自分の好きなこと”や“興味のあること”を発信することで、役割をもって活動する機会が生まれている。当事者だけでなく家族やこれからお子さんを迎える方等の参加もあった。ひろばとは違う居場所となり、定期的につながる場として開催されている。
- ・父親同士がつながり活動する場づくりとして、当事者の父親が主体となり「パパプロジェクト」を発足。父親のコミュニティづくりのきっかけとなっている。
- ・「赤ちゃんのお世話体験会」等で、プレパパ、プレママとして参加していた方が、その後、ひろばで先輩パパママとして活躍し、拠点利用者の循環が生まれている。拠点が、当事者同士で子育てについて学び合う場となっている。
- ・当事者同士つながりにくい方々が交流できる場を多数開催。当事者同士で気兼ねなく話せる場となっており、様々な参加者と関わることで、養育者が地域を身近に感じられるようになっている。また、養育者が拠点の利用や交流の場を通じて、地域の様々な活動に関心をもち、自分自身が役割をもって地域活動に参加するきっかけも生まれている。
- ・当事者自身が“自分の好きなこと”や“興味のあること”を発信する「じぶん企画」のサポートを行うことで、拠点を利用している養育者が役割をもって活動する機会が生まれている。また、当事者だけでなく家族やこれからお子さんを迎える方等の参加もあり、ひろばとは違う居場所となり、定期的につながる場として開催されている。
- ・「特別養子縁組家族のおしゃべり会」等、当事者自身が抱える悩みを話せる場にもなっている。
- ・「ダウン症児親子の日」は、先輩当事者の助言を元に開催。イベント当日は、当事者ならではの目線で参加者に寄り添うことができ、参加者同士が安心してつながる場となった。
- ・父親同士がつながり活動する場づくりとして、当事者の父親が主体となり「パパプロジェクト」を発足。父親のコミュニティづくりのきっかけとなっている。
- ・「赤ちゃんのお世話体験会」等で、プレパパ、プレママとして参加していた方が、その後、ひろばで先輩パパママとして活躍し、拠点利用者の循環が生まれている。拠点が、当事者同士で子育てについて学び合う場となっている。

3【子育てに優しい地域作り】

- ・地域で活動する団体や施設を養育者に紹介する場として、チルコロウィーク(※16)を開催。商業施設の中にある拠点の立地を活かし、テナント内の企業と連携を行い、企業の“子育てを応援する地盤作り”へとつなげるきっかけ作りを行った。拠点のみならず、イベントスペースでの公開活動をおこなったことで、幅広い年齢層の方にも、地域で活動をしている団体の活動を知ってもらう機会となった。
 - ・多世代、多様な人をつなぐきっかけづくりのために他施設や外国人支援をしている団体と連携をして、おしゃべり会やワークショップを開催。親子交流を通してお互いの理解促進を図った。
 - ・自治会・町内会が主催する地域のおまつりや区民まつり等へ参加をして、子育ての現状を広く区民に周知。また、これから子育て当事者となる学生等に沐浴体験を実施。体験を通して、学生や地域の方々への理解促進を図った。
 - ・ボランティア「ポポ☆メイト」の活動では、季節の工作イベント、公園あそび、イベントでの見守り保育等、それぞれが得意なことで活躍できる場を提供し、世代を超えた親子交流の場となっている。これまでは、シニア層の参加が多かったが、世代が広がり、子育て中の方や高校生の参加もあった。日頃、お互いに接点が少ない世代が拠点のボランティアを通して交流が生まれ、お互いのスキルアップにもつながっている。また、活動の場が拠点内から、地域のイベントの場へと広がっている。
 - ・地域の支援者と子育て家庭とが同じ場所で、子育てや子どもの居場所についての講演会を聞く機会を提供した。支援者と当事者とで「子育ての課題」への共通認識や、地域の中でゆるやかなつながりが生まれるきっかけとなった。
 - ・「ダウン症児親子の日」は、先輩当事者の助言を元に開催。イベント当日は、当事者ならではの目線で参加者に寄り添うことができ、参加者同士が安心してつながる場となった。
- 4【次世代育成】
- ・年間を通して看護実習生やボランティアを受け入れ、これから社会参加する学生に学びの場と子育て当事者との交流の機会を提供した。また、ひろばの利用者が看護実習生やボランティアに関心を持ち、自ら自分の子どもとふれあう機会を提供する等、交流が生まれた。
 - ・短期インターンシップ生の受け入れを行った。学生の活動希望を丁寧に受け止め、拠点事業に参加する機会を設けたことで、子育て当事者との相互理解の場となった。
 - ・「ヤマトつながるプロジェクト」(※17)に参加。企業、学生、地域訓練会、拠点の4者が連携してイベントを実施。普段接点のもちにくい人たちが一緒に活動をしたり関わることで相互交流の場となり、お互いの背景等の相互理解が深まった。
 - ・これから出産を迎える方の学びの場として、区と協働で休日両親教室を開催。拠点での休日両親教室参加の際には、拠点見学を実施することで、子育て中の親子とふれあう機会にもなっている。
 - ・「お世話体験会」や「先輩ママ・パパとのおしゃべり会」では、先輩パパママが自身の体験等を伝え、活躍する場となっている。
 - ・子育ての現状を広く区民に周知するために、区民まつり等の地域行事にて拠点事業の周知を行った。また、自治会が開催する地域イベントにも積極的に参加し、子育て支援の必要性等の啓発を行っている。

(※15) 特別養子縁組家族、ダウン症児親子、父親等。

(※16) 地域の子育てに関わる人たちが、知り合うためのきっかけ作りとして行うイベントウィーク。イベントや講座、団体・施設紹介、サークル活動の紹介等を行う。参加団体/子育てサークル、親と子のつどいの広場、地域の読み聞かせ団体等。

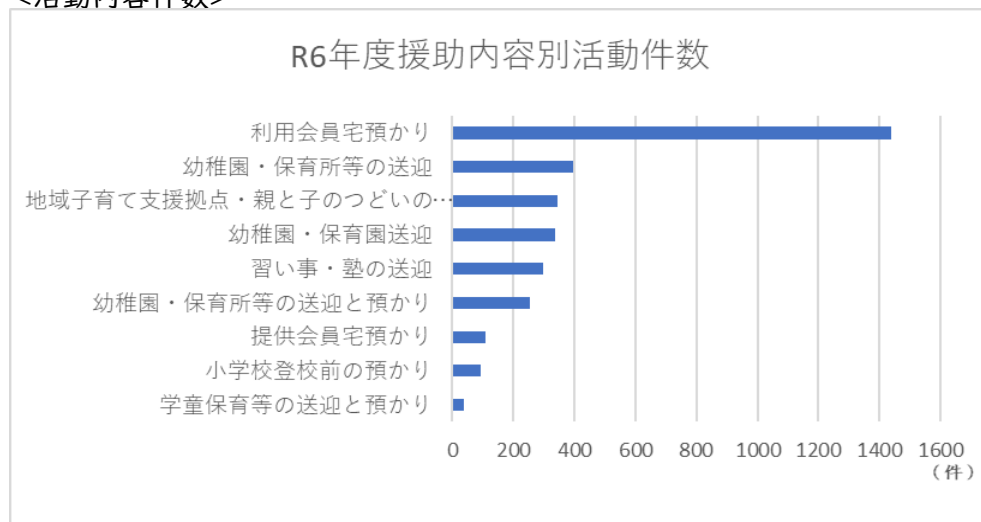
(※17) ヤマト福祉財団の助成のもと、ヤマト運輸労働組合青年部とNPO法人アクションポート横浜の学生と一緒に福祉のボランティアを企画・実施。地域や福祉に貢献するプロジェクト。

評価の理由(区)
1 拠点と共に子育てネットワーク交流会を継続的に実施し、スキルアップのための講演を実施。区の子育て世帯についての統計・地域情報を共有し子育ての現状を共有した。外あそび連絡会は地域で自立した活動が可能となったため、令和4年度で終了。 2 広報よこはま都筑区版において、子育て支援活動を紹介し、その必要性を周知した。また、区の児童虐待防止月間のパネル展示の際に、拠点紹介のパネルを展示し、啓発を行った。 3 拠点において休日両親教室を実施し、妊娠期から子育てについて考え学び合える場とした。 4 拠点で実施している養育者支援のためのイベントの周知に努めている。 5 地域で埋もれている人材発掘のため窓口や乳幼児健診会場で情報を提供している。
拠点事業としての成果と課題
(成果) ・子育て当事者には子育ての先輩として体験談を話す場等を設け、当事者自身が話しやすい場を作ることにつながった。 ・拠点スタッフが地域に足を運んで一緒に活動を行うことで、地域の担い手を支えている。 ・学生ボランティアや実習生等を受け入れて、子育て当事者との交流の機会を作った。子育て中の親子と触れ合うことで、子育ての現状や子育て支援の必要性を感じられる場となった。 ・インターンシップの受入れを積極的に行い、若い世代が拠点事業に関われる機会を創出した。それにより、子育て当事者と若い世代の関わりが広がっている。 ・ボランティア活動「ポポ☆メイト」の参加者の世代が広がり、参加者数も増加をした。また、活動の場を拠点内だけでなく、地域のイベントの場等へ広げることで、日頃接点が少ない世代がボランティアを通して交流する場を創出した。 (課題) ・これから子育ての当事者となる学生等や地域の市民に対して、子育て中の親子とふれあい、学び合う機会をつくっていく。また、学生が好きなことを活かし、相互に理解が深まるような機会づくりを推進していく。 ・じぶん企画を継続して実施し、新たな担い手の育成として、自分の得意なことや好きなことを活かして支援活動につなげる仕組みの推進を実施する。 ・地域全体で子育て家庭を温かく見守る風土づくりをより推進していくためには、子育て支援関係者のみならず、企業や地域の方々へ、子育て家庭の現状や子育て支援の必要性について、周知啓発をさらに行っていく必要がある。 ・新たな担い手の育成には、多世代、多様な方等が活動に参加できるよう、様々な視点できっかけづくりをしていく必要がある。

6 横浜子育てサポートシステム区支部事務局運営事業

目指す拠点の姿	(参考)3期目振り返りの課題	自己評価(A~D)																																									
		法人	区																																								
①子育てサポートシステムに、多くの区民の参画が得られている。	・データから、入会説明会から登録につながる割合が少ないことがわかったため、参加者が登録につながるよう工夫が必要である。	B	B																																								
②養育者にとって、必要な時に利用しやすい事業となっている。	・横浜子育てサポートシステムだけでは支援できないことが増えてきたが、それに代わる社会資源が不足していると感じることが多い。	A	A																																								
③会員が地域の支え合いの良さ、大切さを理解しながら、利用や活動を継続できるように、支えることが出来ている。	・事業の主旨である「地域のささえあい」を超えた利用目的の場合、提供会員の理解を得られにくいこともある。より一層、「地域のささえあい」であることを周知し、理解を深めていきたい。	B	B																																								
④養育者の利用相談内容に応じて、子育て相談や他機関等の情報を提供し、必要な支援につなげている。	・提供会員と利用会員数の地域差があり、利用や活動を進めていく上での課題となっている。	A	A																																								
評価の理由(法人)																																											
(主なデータ)																																											
<会員数>		<入会説明会回数> (回)																																									
	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th><th>利用会員</th><th>提供会員</th><th>両方会員</th><th>合計</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>R2年度</td><td>621</td><td>146</td><td>36</td><td>803</td></tr> <tr><td>R3年度</td><td>714</td><td>148</td><td>34</td><td>896</td></tr> <tr><td>R4年度</td><td>803</td><td>156</td><td>33</td><td>992</td></tr> <tr><td>R5年度</td><td>927</td><td>174</td><td>34</td><td>1,135</td></tr> <tr><td>R6年度</td><td>1,048</td><td>172</td><td>37</td><td>1,257</td></tr> </tbody> </table>		利用会員	提供会員	両方会員	合計	R2年度	621	146	36	803	R3年度	714	148	34	896	R4年度	803	156	33	992	R5年度	927	174	34	1,135	R6年度	1,048	172	37	1,257												
	利用会員	提供会員	両方会員	合計																																							
R2年度	621	146	36	803																																							
R3年度	714	148	34	896																																							
R4年度	803	156	33	992																																							
R5年度	927	174	34	1,135																																							
R6年度	1,048	172	37	1,257																																							
		<table border="1"> <thead> <tr> <th></th><th>集団</th><th>出張</th><th>個別</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>R2年度</td><td>20</td><td>12</td><td>38</td></tr> <tr><td>R3年度</td><td>34</td><td>11</td><td>55</td></tr> <tr><td>R4年度</td><td>48</td><td>11</td><td>50</td></tr> <tr><td>R5年度</td><td>53</td><td>14</td><td>62</td></tr> <tr><td>R6年度</td><td>44</td><td>14</td><td>27</td></tr> </tbody> </table>		集団	出張	個別	R2年度	20	12	38	R3年度	34	11	55	R4年度	48	11	50	R5年度	53	14	62	R6年度	44	14	27																	
	集団	出張	個別																																								
R2年度	20	12	38																																								
R3年度	34	11	55																																								
R4年度	48	11	50																																								
R5年度	53	14	62																																								
R6年度	44	14	27																																								
<活動件数>		<p>* R6年度「活動件数」 横浜市地域子育て支援拠点サイト(※18)導入に伴い集計不能</p>																																									
	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th><th>コーディネーター件数</th><th>事前打ち合わせ件数</th><th>活動件数</th><th>内ひろば等の預かり件数</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>R2年度</td><td>172</td><td>112</td><td>1,959</td><td>70</td></tr> <tr><td>R3年度</td><td>280</td><td>199</td><td>2,435</td><td>79</td></tr> <tr><td>R4年度</td><td>337</td><td>237</td><td>3,341</td><td>200</td></tr> <tr><td>R5年度</td><td>505</td><td>328</td><td>5,253</td><td>183</td></tr> <tr><td>R6年度</td><td>455</td><td>313</td><td>*</td><td>347</td></tr> </tbody> </table>		コーディネーター件数	事前打ち合わせ件数	活動件数	内ひろば等の預かり件数	R2年度	172	112	1,959	70	R3年度	280	199	2,435	79	R4年度	337	237	3,341	200	R5年度	505	328	5,253	183	R6年度	455	313	*	347												
	コーディネーター件数	事前打ち合わせ件数	活動件数	内ひろば等の預かり件数																																							
R2年度	172	112	1,959	70																																							
R3年度	280	199	2,435	79																																							
R4年度	337	237	3,341	200																																							
R5年度	505	328	5,253	183																																							
R6年度	455	313	*	347																																							
<登録者数>																																											
	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th><th>入会説明会参加者数</th><th>登録者数</th><th>登録割合</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>R2年度</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>利用会員</td><td>216人</td><td>128人</td><td>59%</td></tr> <tr><td>提供・両方会員</td><td>30人</td><td>8人</td><td>26%</td></tr> <tr><td>計</td><td>246人</td><td>136人</td><td>55%</td></tr> </tbody> </table>		入会説明会参加者数	登録者数	登録割合	R2年度				利用会員	216人	128人	59%	提供・両方会員	30人	8人	26%	計	246人	136人	55%	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th><th>入会説明会参加者数</th><th>登録者数</th><th>登録割合</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>R6年度</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>利用会員</td><td>415人</td><td>406人</td><td>98%</td></tr> <tr><td>提供・両方会員</td><td>67人</td><td>23人</td><td>34%</td></tr> <tr><td>計</td><td>482人</td><td>429人</td><td>89%</td></tr> </tbody> </table>		入会説明会参加者数	登録者数	登録割合	R6年度				利用会員	415人	406人	98%	提供・両方会員	67人	23人	34%	計	482人	429人	89%	
	入会説明会参加者数	登録者数	登録割合																																								
R2年度																																											
利用会員	216人	128人	59%																																								
提供・両方会員	30人	8人	26%																																								
計	246人	136人	55%																																								
	入会説明会参加者数	登録者数	登録割合																																								
R6年度																																											
利用会員	415人	406人	98%																																								
提供・両方会員	67人	23人	34%																																								
計	482人	429人	89%																																								

<活動内容件数>



(※18) 横浜市地域子育て支援拠点のひろば利用登録及び横浜子育てサポートシステムの会員登録や・動
報告等ができるwebサイト。R6年度より導入開始。以下「拠点サイト」と明記。

様式1ー6 地域子育て支援拠点事業評価シート

1【横浜子育てサポートシステムの周知】

- ・「広報よこはま都筑区版」、小中学校PTAへのチラシ配布、駅構内のPRボックス等で地域への周知を行ったことにより、拠点利用者以外の方の入会説明会参加につながった。
- ・地域のおまつり等で周知を行い、子育て世代以外の地域の方にもより広く「横浜子育てサポートシステム」について知ってもらい、興味を持ってもらう機会となった。
- ・両親教室等で妊娠期の方へ向けて周知を行ったことにより、入会説明会への参加につながった。
- ・拠点HP内に「子サポのお知らせ」ページを増設。これまで会員への連絡手段は郵送のみだったが、事務局からの情報発信をHPでできるようにした。サポート活動の様子等も掲載し、登録を検討中の方に向けて情報発信にもなっている。
- ・気軽にひろばでの預かりを利用してもらえるように、利用する際のフローチャートを作成し、ひろばで掲示した。掲示を見て初めてのサポート依頼や、未登録の方の入会説明会への参加につながった。また、ひろばでの預かりが増えることで、ひろば利用者が実際の預かりの様子を目にする場面も増え、お子さんを預けることに対するの安心感につながっている。
- ・地域ケアプラザの協力を得て、連合町内会を通し、会員数が少ない地域の自治会町内会の掲示板に提供会員募集のチラシを掲示、周知を行った。
- ・小・中学校配信システム「すぐる」にて、保護者に向けて、入会説明会の案内、提供会員募集のお知らせを配信し、提供会員増員に向けての周知を行った。
- ・区開催「小学校入学前に知っておきたい大切なこと～今から備える小1の壁」講演会にて利用について説明を行った。小学校入学後の親子の環境の変化の際に、手助けになる地域の力があることを知ってもらう機会となった。
- ・拠点サイト導入により、サイトを通して会員間でのやりとりが可能になったことや、無料クーポン発行、利用料の改定等、利用会員にとっての利便性向上を周知、対応していくことで、リフレッシュ等の理由で気軽に子サポを利用する会員が増えている。
- ・拠点での入会説明会参加時に、入会手続きがその場で完了することを周知。利用会員の即時登録につながった。

2【活動への理解促進】

- ・区で配布している「都筑区に新しく来た外国人のためのウエルカムキット」に、「やさしい日本語」で制作した横浜子育てサポートシステムのチラシを入れている。
- ・会員ひとりひとりの背景を丁寧に聞き取り、内容を整理。利用、提供・両方双方の会員が安心して活動できるよう、コーディネートを行った。
- ・横浜子育てサポートシステムの紹介ボードを作成し地域のおまつり等で周知を行った。子育て世代ではない地域の方に事業を知ってもらうきっかけとなった。
- ・外国につながる方への入会希望が増えていることに伴い、横浜子育てサポートシステムの概要等、英語の資料を作成。会員双方が、相互理解をし、良好なコミュニケーションをとって活動できるように、入会後も継続的にフォローを行った。

3【活動継続の支援】

- ・リフレッシュ等での短時間の預かり希望のニーズに応え、ひろばで「ちょこっと預かり(※19)」を月4回実施。預かり場所がスタッフも見守っているひろばであることや、短時間の活動であること等から、利用会員が初めて預かりを利用するきっかけになっている。また、活動の機会の少ない方や活動未経験の提供・両方会員への活動の機会にもなっている。
- ・拠点サイト導入にあたり、既存会員の拠点サイトへの移行や、「パマトコ」との連携作業を丁寧に周知、対応し、スムーズに使用できるように操作方法等をフォローした。
- ・お子さんに配慮が必要な場合や、内容が複雑なサポート等、活動開始後に事務局から連絡をして活動時の様子を確認。安心安全な活動が継続できるように支援した。
- ・会員の研修として、地域の中で大人も子どもも自分らしくいられる居場所の大切さや、子どもの力を信じて寄り添うことの大切さを描いた「ゆめパの時間」の上映会と講演会を開催。また、リラックスした雰囲気の中で会員同士が交流ができるように手仕事(手芸)をしながら交流会を実施。会員が日頃の活動の意義を感じられる機会を設けた。
- ・「個人情報の取扱い」について事前打合せ時に会員双方とコーディネーターで読み合わせを行い、活動開始前に個人情報の重要性について確認。取扱いについて双方に齟齬がないように努めている。

様式1-6 地域子育て支援拠点事業評価シート

4【他機関との連携と支援】

- ・状況に応じて、保健師同席の上個別に入会説明を行い、早急に登録の手続きを進めたり、必要に応じたコーディネートをする等の対応を行った。
- ・「ちょこっと子育てレスキュー隊（※20）」の定例会に参加し、地域での預かりや各事業所で抱える課題を共有し、連携を図っている。
- ・区外への送迎等、遠方へのサポート依頼でコーディネートが難しい場合等、他区区支部とも協力し、コーディネートを成立させるように連携している。
- ・専門対応が必要と考えられる依頼については、利用者に了承の上、保育園や横浜市北部地域療育センター等の専門機関に相談をし、コーディネートをすすめている。

（※19）前日予約でひろばでお子さんを預けることができる子サポ会員向けの仕組み。

（※20）区内で子育て支援事業を行っている団体で構成。子育て中に関わらず、その地域で生活する誰もが暮らしやすくなるために、地域の課題を一団体が抱えるのではなく、団体と個人が協力体制をとって課題の共有や解決に取り組んでいる。横浜市北部地域療育センターでのきょうだい児預かりや出張一時預かり等を行っている。

評価の理由(区)

- 1 横浜子育てサポートシステムと無料クーポンの周知のため、様々な場で事業紹介を行っている。（乳幼児健診、母子健康手帳交付、赤ちゃん会、子育て支援者、両親教室、母子訪問、こにちは赤ちゃん訪問、小中学校校長会等）
- 2 様々な場での周知により、利用者は拡大傾向にあるが、提供会員不足が課題となっているため、広報よこはま都筑区版で提供会員募集の記事を掲載した。
- 3 実際にサービスを受けるにあたり、対応が分からない養育者に対し、個別で横浜子育てサポートシステム事務局につなぎ、スムーズな利用につながるよう連携している。
- 4 拠点と区の定例会で、提供会員・利用会員の状況、活動状況等、運営状況の把握を行なっている。
- 5 拠点に対して個人情報保護研修を実施。必要に応じて個人情報の管理方法について助言を行っている。
- 6 事故発生時は事故と発生時対応マニュアルのフローに沿って、タイムリーな対応をしている。再発予防のための対策を助言している。

拠点事業としての成果と課題

（成果）

- ・新たな企業との連携により、「横浜子育てサポートシステム」の事業理解を進められたことは、違う角度からの周知活動につながった。
- ・事業周知やひろば内での預かりの充実をすすめてきたことで利用会員の登録者数が増加した。また、ひろばでの活動の様子をみた利用者が両方会員への興味をもつきっかけにもつながった。
- ・地域の支援者（赤ちゃん訪問員、主任児童委員、保育園職員等）が提供会員となることで見守りが必要な親子に対しての地域ぐるみでの支援につなげることができた。
- ・拠点サイト導入や新制度開始により、利便性がよくなったことを周知、対応した結果、リフレッシュ等の理由で横浜子育てサポートシステムを利用する会員が増え、子どもを気軽に預けることへのハードルを下げることにつながった。

（課題）

- ・新制度、新システム導入により、利用会員が増加、依頼件数も増加傾向にあるが、利用会員数に対して提供・両方会員数が少なく、コーディネートをする際の課題となっている。今後、提供・両方会員を増やしていくためにも、子育て世代以外の方に事業を知ってもらい、地域全体での協力を得られるように理解をしてもらうことが必要である。
- ・地域での支え合い活動である意義を改めて双方会員に理解していただき、会員間の信頼関係の構築につながるよう伝えていくことが必要である。
- ・システム化により、利便性が向上した部分もある反面、操作方法に慣れず、システム利用にスムーズに移行できていない会員もいた。引き続き丁寧に対応し、フォローしていくことが必要である。
- ・見守りが必要な親子のサポート依頼が増えており、地域の方に関わってもらう上で、重責となることもある。そのような依頼をどこまで、どのように提供会員に依頼し、つなげていくかが課題である。

7 利用者支援事業

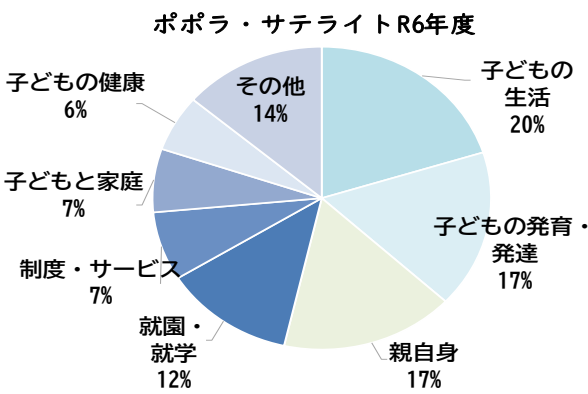
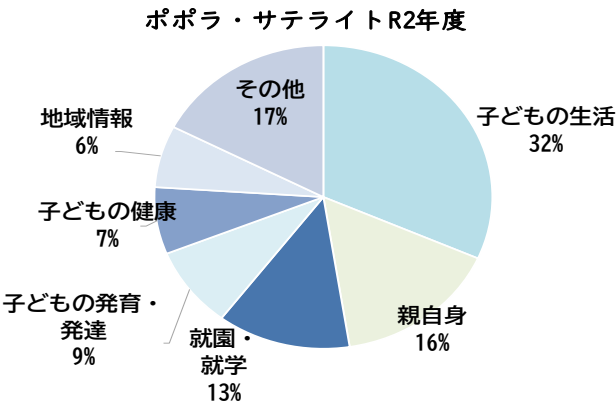
目指す拠点の姿	(参考)3期目振り返りの課題	自己評価(A～D)	
		法人	区
①拠点における利用者支援事業が、区民や関係機関に広く認知されている。	・相談内容が幅広く複雑となったため、多様な情報収集が必要で、提供するスタッフのスキルアップも必要となり、継続して、情報収集やスタッフ研修を実施していく必要がある。	B	B
②相談者に寄り添い主体性を尊重しながら、個別相談に応じ、適切な支援を行っている。		A	A
③子育て家庭を支えるためのネットワークの一員として、包括的な視点を持って子ども・子育て支援に関する関係機関や地域の社会資源との協働の関係づくりを行っている。		A	A

評価の理由(法人)

(主なデータ)
<相談件数>

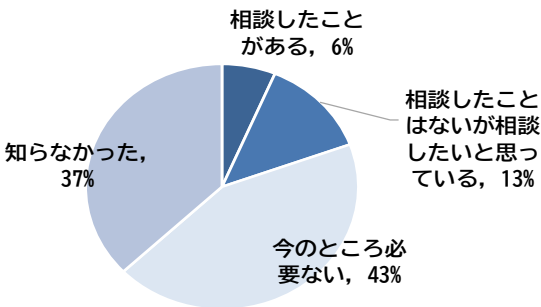
	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
個別相談	434件	520件	550件	482件	336件
地域連携	305件	368件	341件	414件	331件

<主な相談内容>

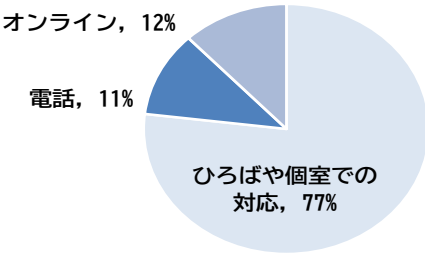


<令和6年度都筑区子育て支援拠点ポポラ・サテライト利用者アンケート>

●横浜子育てパートナーを知っていますか？



●横浜子育てパートナーに相談する場合はどのような方法が相談しやすいですか？



様式1-7 地域子育て支援拠点事業評価シート

1【利用者支援事業の周知】

- ・妊娠期：妊娠期の方において、区・拠点・地域ケアプラザで開催されている両親教室や妊娠期向け講座等で利用者支援事業の周知を行った。そのことがきっかけとなり妊娠期から拠点に足を運ぶ方もみられた。さらに地域の支援関係者にも周知が拡がり、関係性も深まったと感じている。
- ・産院：区と一緒に区内の産院へ訪問し、拠点や利用者支援事業の周知を始めたことで、産院へ定期的に情報を届ける機会が生まれた。隣接区の産院の希望もあり、隣接区（港北区・緑区）の横浜子育てパートナーと共に産院の両親教室に参加し、拠点が妊娠期から利用できることを周知すると共に利用者支援事業についても説明を行った。また、横浜市全区に拠点が設置されており、身近な場所で横浜子育てパートナーに相談できることを説明した。
- ・広報：広報誌・チラシ・HP・SNS等を活用し区民に様々な方法で広く周知を行った。妊娠期向け講座の参加や相談のための来所のきっかけにつながった。
- ・その他：子育てに関わる支援者の会議等に継続して出向き周知したことで、地域の支援関係者との顔が見える関係性の強化につながった。

2【寄り添った対応】

- ・コロナ禍での妊娠・出産・子育てという現状の中、十分な準備ができないという不安の声を受け、いつでもひろばで赤ちゃんの沐浴等の体験ができるよう取り組んだ。また、区の横浜市個別委託乳幼児健康診査事業の郵送物にメッセージカードの同封を依頼し、身近な相談窓口があることをお知らせした。
- ・地域の居場所（公園遊び、子育てサロン、ほいくえん広場等）に足を運び、養育者が生活している身近な場所で相談ができるよう取り組んだ。
- ・地域ケアプラザからの要望により「子育てサロン」に出張相談に出向いた。拠点に足を運びにくい地域の親子の支援につながった。
- ・地域のおまつり等に参加し、赤ちゃんのお世話体験ができるよう取り組んだことで、子育て世代以外の人に対しても子育ての理解をすすめる機会をつくることができた。
- ・他区民の相談も多いため、他区の横浜子育てパートナーと連携を強化。双方で見守りを続けたり、連携で得た情報を利用者がいつでも閲覧できるようにファイルを整理し、スタッフも活用している。
- ・サテライトでは緑区在住の親子の利用も多いため、緑区拠点の横浜子育てパートナーの相談日を設け地域情報の提供など直接相談対応をしてもらった。
- ・相談者に丁寧に寄り添ったことで、子どもが成長した後も拠点に来所が継続している。養育者のみでの来所もあり、養育者自身の体験等をフィードバックしてくれることで、その情報を他の相談に活かしている。
- ・帰り際等の様子にも気を配り丁寧に対応したことで、ひろば利用中には相談しづらいと感じていたり、ひろばの利用を希望しない養育者の相談にも、ちびぞうひろばやカフェコーナーで応じることができた。
- ・同じような子育ての背景を持つ養育者同士（産後間もない時期のママ、多胎養育者、ダウン症児養育者等）が交流し、情報交換できる場を創出。当事者同士が悩みや体験を共有することで、子育ての孤立感の軽減につながった。
- ・「傾聴」をテーマに研修を実施。改めて話を聴くことの大切さを理解し、利用者に寄り添った対応ができるよう学びを深めた。
- ・横浜子育てパートナーが参加した様々な研修（「父親支援の勉強会」「ジェンダー平等」等）の内容を拠点スタッフに共有し、スタッフ自身の知識を深める機会を設けた。
- ・父親同士のつながりづくりとして、父親が主体となり地域の人と一緒にゴミ拾いイベントを開催。当事者の意見を聞きながら、父親同士が気軽に相談したり情報交換ができる場を定期的に開催することの検討につながった。
- ・地域ケアプラザと「男性育休講座」を共催。妊娠期から父親同士がつながれる機会をつくったことで、当事者ならではの悩みや困り感等を共有できる場となった。
- ・オンライン相談や予約方法等について、パートナー連絡会にて各区の取組や現状を共有。こども青少年局策定のガイドライン（※21）を18区で確認する等、自区で運用する際の利点や課題を整理した。
- ・月1回のパートナーカンファレンスで、情報共有し役割分担を確認した。また、早期対応が必要なケースについては、個別で区と調整し対応している。

3【関係機関との地域連携】

- ・区主催の両親教室に参加し、母子保健コーディネーターと連携して参加者同士のつながりや相談の対応を行った。その場で見えた課題については振り返りを行い、妊娠期から切れ目のない支援に取り組むことができた。
- ・拠点で保育・教育コンシェルジュの相談日を設けた。子どもが遊ぶ傍らで、保育園等入所や就園について気軽に相談できる場となっている。
- ・定期的に母子保健コーディネーターや保育・教育コンシェルジュと連携して事業を行うことで、変化する社会状況に応じた対応についてタイムリーに情報共有ができています。またその内容について拠点スタッフと共有し、ひろば等での相談に活かすことができています。
- ・ネットワークで課題としていた「妊娠期からの切れ目のない支援」について、支援の場が少ないエリアで産前産後の集まりを開催することができた。主任児童委員、親と子のつどいの広場、地区担当保健師等と共に企画運営を担当し、参加者と支援者が身近な地域でつながることができた。
- ・イトーヨーカドー赤ちゃん休憩室相談員の保健師との顔合わせの機会を区がつくってくれたことで、相談員と横浜子育てパートナーの連携が始まった。それぞれが受けた相談内容によっては互いに紹介しあえるような関係性ができた。

様式1ー7 地域子育て支援拠点事業評価シート

- ・拠点が区内の北部と南部にでき、横浜子育てパートナーも二人になったことで、区内の南部方面、北部方面と分けて担当し、今まで関係性を強化しづらかった南部方面の関係機関との連携が広がった。
- ・都筑区自立支援協議会こども部会に参加し、子どものライフステージごとの支援関係者(児童発達支援事業所、放課後等デイサービス、特別支援学校等)と情報交換。互いの機能や役割を理解することができた。就学後に抱える不安等を知ったり、関係機関が取り組む課題等を学ぶことで、相談者の気持ちにより寄り添えるようになった。
- ・横浜市幼稚園協会都筑支部のイベントに継続して参加したことで、障がい児・医療的ケア児の居場所を実施している関係者と関係性を築けた。相談者に情報提供をするとともに、その関係性を活かし拠点での「ダウン症児親子の日」の開催につながり、拠点利用者の要望に応えることができた。
- ・生活困窮者への食支援の場や情報交換会に参加。新たな支援関係者と関係を築けた。
- ・近隣区拠点のひとり親向けの事業に参加し、自拠点での開催に向けて他区の横浜子育てパートナーと意見交換する等検討することができた。
- ・区内の相談機関(地域療育センター、児童家庭支援センター等)に訪問。それぞれがもつ機能や役割、そこに繋がる親子の背景等を理解する機会となり、より連携のしやすい関係性につながった。
- ・必要に応じて相談者を関係機関へつなぎ、双方で相談者を多角的に見守ることができた。

(※21) 地域子育て支援拠点及び親と子のつどいの広場でのオンラインによる支援のガイドライン

評価の理由(区)

- 1 区民・関係機関に利用者支援事業のことを幅広く知ってもらうため、広報よこはま都筑区版に事業説明の記事を掲載した。また、母子健康手帳交付時や両親教室時に利用者支援事業の説明をした。赤ちゃん会・子育て支援者会場、窓口・乳幼児健診会場等でチラシを配布・配架した。
- 2 関係機関で拠点の利用者支援事業の認知度が高まるよう、こんにちは赤ちゃん訪問員の定例会に横浜子育てパートナーが参加し、事業説明を行えるよう調整した。
- 3 支援が必要な家庭に対し、適切に支援できるよう、定例会や横浜子育てパートナーカンファレンスで、支援方針や役割確認等、相談・助言を行っている。また、状況に応じ、母子保健コーディネーター、地区担当者や権利擁護担当につなぎ、速やかな対応ができるよう支援している。
- 4 横浜子育てパートナーが地域の社会資源と円滑な連携が図れるように、関係機関の見学等、区が連絡調整を行っている。
- 5 支援者のスキルアップをはかるため、区で作成した動画や研修を共有している。

拠点事業としての成果と課題

(成果)

- ・コロナ禍、地域に出向く機会が減り、関係機関との連携を深めることが難しい時期もあったが、その中でもイベントの開催や開催方法について情報提供したり、相談を受けるなど、地域での支援が途切れることのないよう取り組んだ。
- ・拠点が二か所になったことで横浜子育てパートナーが二人になり、関係機関に足を運ぶ機会が増えたことで顔が見える関係性が広がり連携がさらに強化された。また得られる情報が増え利用者により多くの情報を届けられるようになったことで、地域のサービスの利用にもつながっている。
- ・横浜子育てパートナーが研修や関係機関との連携の中で得た知識や情報等については、拠点スタッフとも積極的に共有しひろばでの利用者に寄り添った対応や相談に活かすことにつながった。
- ・寄り添った対応と地域との顔の見える関係づくりに務めたことにより、必要に応じ専門機関での相談にスムーズにつなげることができた。

(課題)

- ・周知に力を入れているが、利用者層の入れ替わりや転出入の多い地域性から横浜子育てパートナーの周知が充足することの難しさがある。引き続き子育て世代や関係者に利用者支援事業の周知を継続的に行うとともに、様々な背景をもつ子育て家庭の声を聞く機会の創出についても検討していく。
- ・相談しやすい仕組みづくりとして、予約方法や相談方法等を引き続き検討していく必要がある。
- ・社会状況の変化に併せて区や地域の関係機関との連携・協働の関係をさらに強化していく。また必要とされる資源の調整や新たな提案も継続して進めていくことが必要。

協働事業プロセス相互検証シート

1 事業計画段階

【共有できたことや認識に違いがあったこと】

・年度初めに、区と拠点合同で「協働」についての研修を行った。区・拠点の職員が異動等で変化する中、4年の継続実施ができ、協働事業への共通の認識をもつことができた。また、研修を近隣5区と合同開催したことで、行っている事業の意味や意義を客観視できる等の相乗効果も生まれた。

・重点目標に掲げている「都筑のまちで安心して自分らしく子育てができる」よう、機会の創出やきっかけづくりをおこなっていくことについて、日頃から連携を図り、事業計画をたてることができた。

【今後改善が必要と思われること】

・引き続き毎年度、年度始めに達成すべき大きな目的や理念についても話し合い、再確認をしていく必要がある。

・子育て世帯のニーズや区民の背景をとらえ、当事者の声を聞きながら事業計画を立てていく必要がある。

・事業計画段階で、拠点と区だけでなく、地域全体で共通の認識を持って取り組めるよう働きかけていく。

2 事業実施段階

【共有できたことや認識に違いがあったこと】

・様々な関連団体や施設、企業等と連携して事業を実施することができた。

・毎月行っている定例会では、報告や情報共有だけではなく、事業の進捗状況や問題点、事業終了後の見通し等も含めて、適宜、議論を行えた。

【今後改善が必要と思われること】

・どの事業においても、事業の本質を密に共有し、双方で相談をしながら進めていく必要がある。

・事業実施に至るまでのプロセスが重要であり、双方に意見の相違があった場合には、より具体的な役割分担等を行い、協議していくことが必要である。

3 事業の振り返り段階

【共有できたことや認識に違いがあったこと】

・お互いの立場で事業の進め方や捉え方に違いがある中で、その違いを確認しあい、丁寧に話し合うことができた。

・拠点、区のそれぞれが持っているエビデンスをお互いで共有し、相互に親子のニーズを把握する場となった。

・5ヶ年の振り返りを行ったことで、双方の認識を改めて合わせることができた。また、お互いの認識の相違等にも気付くことができ、それぞれの役割を再認識することができた。

【今後改善が必要と思われること】

・引き続き、区と拠点で活発に意見交換を行い、共通認識を持って次の事業実施につなげていく必要がある。

・拠点、区のそれぞれが持っているエビデンスをタイムリーに共有し、地域全体のニーズや課題を継続的に把握していく必要がある。

・社会状況の変化に合わせて、その都度丁寧にアウトプット、アウトカムを行い、共通の指標を確認しながら進めていく。